

## やりがい、充実度120%



授業は“商品”  
努力すれば価値が上がり、  
自信を持って勧められる

ホツマインターナショナルスクール  
日本語教師  
白木寛和さん

## Profile

【しらすひろかず】

1976年生まれ。中京大学経済学部卒。2001年5月から1年間、ワーキングホリデーでニュージーランドに滞在。2003年10月から1年間、日本語教師養成講座を受講。国内外の日本語学校を経て、2008年12月からホツマインターナショナルスクールの専任講師。

学生の成長が  
一番の喜び

「先生」という存在が大嫌いだっ  
た自分が、日本語教師の職につい  
たのは、ニュージーランドでス  
ティーブンという語学教師に出  
会ったからです。自分の持つ先  
像とかけ離れた人で、「こんな先  
生もいるんだ」「俺が先生をやっ  
てもいいんじゃないか？」と思っ  
うになりました。

養成講座の修了後に、非常勤講  
師としてスタートを切りました。  
実際に教え始めて気づいたこと  
は、教える日本語がひとつではな  
いことです。留学生、定住者、外  
国人児童では、求める日本語がそ  
れぞれ違います。そして、教師は  
学習者のニーズに合わせて、授業  
スタイル、コミュニケーションの取  
り方を変えていかなければなりま  
せん。

日本語教師となって今年で6  
年目です。ホツマインターナシ  
ョナルスクールで中、上級の授業を  
週8コマ担当していますが、正直  
いつて今も苦労しています。授業  
でどんな質問が飛び出すか、楽し

みでもありますが、やはり怖い。  
それを解決するには授業準備し  
かありません。とにかく授業をイ  
メージして教案を描く。実際はイ  
メージ通りにはなりません。が、  
しっかりと準備をしておけば、修  
正はききます。

正直言って日本語教師の世界は  
厳しいです。それでもこの仕事を  
楽しんでいられるのは、学生の成  
長を感じる瞬間があるから。いつ  
の間にか日本語がうまくなってい  
ることに気付いた時、学生が「わ  
かった！」という表情を浮かべた  
時、それから授業中に狙って笑い  
をとれた時もうれいすね。笑  
えるってことは、日本語を理解し  
ているってことです。

日本語から、学生から  
日々発見の連続

日本語教師は学ぶことが多い仕  
事です。相手は全く違う環境で  
育ってきた人たちですから、思い  
つきもしなかった発想、予想もし  
なかつた行動に触れて、日々発見  
の連続です。そして教えることを  
通じて、日本語のおもしろさを再  
発見しています。「なぜ?」「どう

して?」を解決していくたびに、日  
本語に対する興味が湧いてきま  
す。

前職は営業でした。人と触れ  
合うという点では同じですが、  
売っているものが違います。前は  
知らない誰かが作ったものでした  
が、今は自分の授業です。努力す  
ればするほど商品価値は上がり、  
そして、自信を持って勧められる。  
営業時代はやらされている感が強  
かつたけど、今は、自主的にさまざ  
まな努力、工夫をしています。

目指しているのは、今までどこ  
にもいなかった先生です。学生と  
一緒に本気で泣いたり笑ったりし  
て、「こんな先生いたんだ!」なん  
で、学生に思わせたいですね笑。

ホツマインターナショナルスクール

岐阜県の日本語学校、ホツマインターナシ  
ョナルスクール。グループとして長年にわたり  
技能実習生教育にも取り組んでおり、今回そ  
れらのノウハウを結集して、実践型の日本語  
教師養成講座を東京で新規開講する。

<http://www.hotsuma-group.com/>  
TEL: 03-6279-2034